

都留インターチェンジフルインター化に向けて

道路改良工事を進めています

中央自動車道富士吉田線(東京都杉並区富士吉田富士吉田市間92.8km)は、昭和44年に開通しました。都留インターチェンジは2年後の昭和46年に東京方面へ乗り入れのみができる変則的なインターチェンジが設けられ、市内から直接乗り入れが可能となりました。その後、本線の4車線化工事が進められ、昭和59年には東京方面から降りることも可能となったことから、この形態を通常機能の半分であることから、ハイインターチェンジと呼びます。同方面への交通の利便性が向上し、市内の産業・経済は飛躍的に発展し、地域活性化のために大きな役割を担ってきました。

平成元年には、中央自動車道富士吉田線と東富士五湖道路が接続し、東海方面へのアクセスが向上しました。

市内から東海方面へ通じる東富士五湖道路へアクセスするためには、国道139号を利用しなければなりません。この国道は1日あたり2万台を超える通行過多による慢性的な渋滞から、日常生活に支障をきたし、また、災害時・緊急時における輸送路確保が問題となっています。

